



【次鋒】本川(富士ゼロックス・本社)②メー 中野(日通商事・本社)

▲好調の先鋒・岩川が勝利を奪った富士ゼロックス。次鋒の本川も勢いそのままに初太刀で力強いコテを奪取。続けざまにメンを放てばこれもまた一本となる(写真)。わずか28秒の速攻の勝利で富士ゼロックスが王手をかけた。その後も攻め手をゆるめず戦い、日通商事に反撃を許さなかった

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
富士ゼロックス(本社)		岩川	本川	岡北	住崎	上原	4
		②	③メ	④	⑤	⑥	6
日通商事(本社)		本橋	中野	諸江	只野	丸山	0
							0



日通商事(本社)2×0 伊田テクノス(千葉)

【中堅】諸江③ー 田口

▲実力あるチーム同士の戦いは先鋒、次鋒と引き分けに終わる。中堅戦、諸江の放ったコテが一本となり、日通商事が先制(写真は諸江の攻め)。大将戦でも日通商事・丸山が内田(貢)を下して準決勝進出を決めた



【副将】井口(三井住友海上・本店)②コー 片岡(ブリヂストンエラストック)

▲井口の果敢な先制攻撃には、「大将戦には回さない」というような気迫がうかがえた。開始直後にコテを放った井口は直後のつばぜり合いからひきメンを放って一本先取。片岡も反撃するが、井口は守勢に回らず、片岡の技の尽きたところにコテを追加した(写真)

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
三井住友海上(本店)		山田	石井	鈴木	井口	高村	4
		②メ	③	④	⑤	⑥	7
ブリヂストンエラストック		樺山	宮崎	松井	片岡	安田	1
							1



富士ゼロックス(本社)2×1 NTT

【副将】住崎メ×② 竹越

▲先鋒戦は引き分けに終わるが、次鋒、中堅戦は富士ゼロックスが奪う。竹越にとっては苦しい状況ながらも強烈なメンを決めて先制。さらにもう一本が欲しい竹越だったが、住崎が狙い澄ました出ばなメンを決めて(写真)、NTTの望みを絶った

上位3チームは実業団剣道界でも名の知れた企業が占めたが、そこに割って入ったのはブリヂストンエラストック。過去の上位入賞経験こそないものの、毎大会、序盤戦、中盤戦では潜在能力の高さを感じさせていた好チームである。中堅の松井、大将の安田はともに静岡県代表として全日本選手権大会に出場した経験がある実力者。今回はまさに「台風の目」的な活躍でついに初入賞を遂げた。変わらぬ強さを誇る伝統チームがあらば、一気に飛躍を遂げる隠れた実力派もいる。実業団の魅力が詰まった見応えある大会であった。

誇る伝統チームだが、今回は若手を多く起用して一気に若返りを図ってきた。富士ゼロックスもまた若手を中心としたメンバー構成となっており、対戦カードこそ往年のライバル対決の様相を呈しながらも、個々の対戦ではまた新たな世代による戦いの幕開けを感じさせる、好試合が展開された。

敗れた三井住友海上もメンバーが入れ替わりながらも、前年度に続いての2位入賞という結果で、その層の厚さを充分に見せつけたといえよう。

三井住友海上と同様に、2年連続3位に入賞したのは日通商事(本社)。目立ったポイントゲッターはいないながらも、毎回連係の良さを見せて安定した戦績を残すのはさすがのひと言。もはや常勝チームと呼んで差し支えないほどの見事な戦いぶりだった。



決勝

【先鋒】岩川(富士ゼロックス・本社)②ー 山田(三井住友海上・本店)

▲23歳、チーム最年少の富士ゼロックス・岩川が奮起。同じく23歳の山田からひきメンを奪って貴重な勝利を挙げる(写真)。これで勢いに乗った富士ゼロックスは要の中堅・岡北が二本勝ちで続いて差を広げた

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
富士ゼロックス(本社)		岩川	本川	岡北	住崎	上原	3
		②	③	④	⑤	⑥	4
三井住友海上(本店)		山田	石井	鈴木	井口	高村	0
							0

「過去に三連覇も達成しましたが、その最後は本社チームと港チームとの同社決勝。それからは毎年苦しんできました。あきらめずに続けて良かったと思います」

富士ゼロックス・三木勤監督は第47回(平成17年)以来の優勝を万感の表情でそう振り返った。

三木監督の言葉どおり、富士ゼロックスといえ、かつては実業団剣道界の「平成御三家」とも評された強豪チームである。過去の三連覇の戦績が示すとおり、毎年有望な若手選手が入社、大会に出場すればしっかりと力を見せてはいたが、近年は意外とも言えるほど優勝の二文字からは遠ざかっていた。

決勝戦の相手は、これまた御三家のひとつである三井住友海上(本店)。こちらも過去には大会四連覇の輝かしい戦績を

今大会より、昨年まで関東女子実業団大会として開催されていた「女子の部」が加わり、男子・女子の合同開催となった。

男子がメインとなる「一般の部」を富士ゼロックス(本社)が制すれば、「女子の部」はNTTが優勝。

男女同時開催の記念すべき大会は、両部門ともに実業団剣道界の古豪が頂点に立った。



最優秀選手賞 岩川力 四段(富士ゼロックス・本社)



優勝◆富士ゼロックス(本社) 上原祐二、住崎誠洋、岡北真輔、本川耕平、岩川力、高内雄介。監督=三木勤

第55回関東実業団剣道大会

平成25年6月2日(日)日本武道館
主催◆関東実業団剣道連盟
撮影◆窪田正仁、大川亮夫

関東頂上決戦は一般の部 富士ゼロックス(本社)が制す!



優勝◆NTT

飯田愛梨、村岡真和、木村織江、遠藤奈佳、
監督＝高井田誠

古豪・NTTが 復活のV 女子の部

ゲーム	先	中	大	得点
NTT	木村 織江	村岡 真和	飯田 愛梨	1
ALSOK (東京)	平山 角田	鈴木 木		0

【先鋒】木村(NTT)④ー平山(ALSOK・東京)
▶ALSOKのボイントゲッターである平山が初太刀からメンに
出るなど攻め気も充分。一方の木村は平山の素速い攻め込み
に冷静に対処。ソキを放つてわずかに平山の足を止めると、そ
こからさらに伸びたメンが見事に決まった(写真)



決勝



最優秀選手賞
飯田愛梨
四段(NTT)

関東女子実業団大会と称された大会は
昨年12月に開催された第22回大会でひと
まずの幕を閉じた。今大会より男子(一
般の部)と同時に開催となり、女子実業団
剣道界はまた新たな変革を迎えたといえ
るだろう。

関東女子実業団大会初の日本武道館に
よる開催となった記念すべき大会は、N
TTが制した。同社にとっては、かつて
第9回大会(平成11年)において、NTT
東日本東京(A)が優勝して以来の関東
制覇であり、男子の部の富士ゼロックス
(本社)と同じく、復活を感じさせる見事
な戦いぶりだった。

決勝戦、NTTが相対したのはALS
OK(東京)。今年3月に開催された第16
回全日本実業団女子剣道大会において優
勝を果たしたのがALSOK(A)だが、
今回の東京チームはその優勝メンバーに
よって構成されていた。さらにいえば、
3月の大会の準決勝ではNTTと対戦し
ており、そこではALSOKが大将戦を
制して1-0で勝利している。NTTに



5回戦

ブリヂストンエラストック 2×0 伊田テクノス(本社)

【副将】片岡 反メー④ 石山

▲前3人が引き分けに終わり、試合はこの副将戦から動いた。石山がメンで先制する
も片岡が反則一本とメンで逆転勝利(写真は攻防)。伊田テクノスは大將・橋本に望
みを託すが、この大將戦はブリヂストン・安田がわずか13秒の速攻で勝利した



三井住友海上(新宿) 2代×2 野村證券(本社)

【代表】小田口 永松

▲先鋒、中堅を奪われた苦しい状況から副将・立見、大將・宮本の勝利で三井住
友海上が追いついた。代表戦は中堅同士の再戦。永松にも惜しいメンがあったが、
小田口が絶妙な機会に出ゴテを決めた(写真)



5回戦

JR東日本(東京) 1代×1 富士ゼロックス東京(本社)

【代表】辻 野村

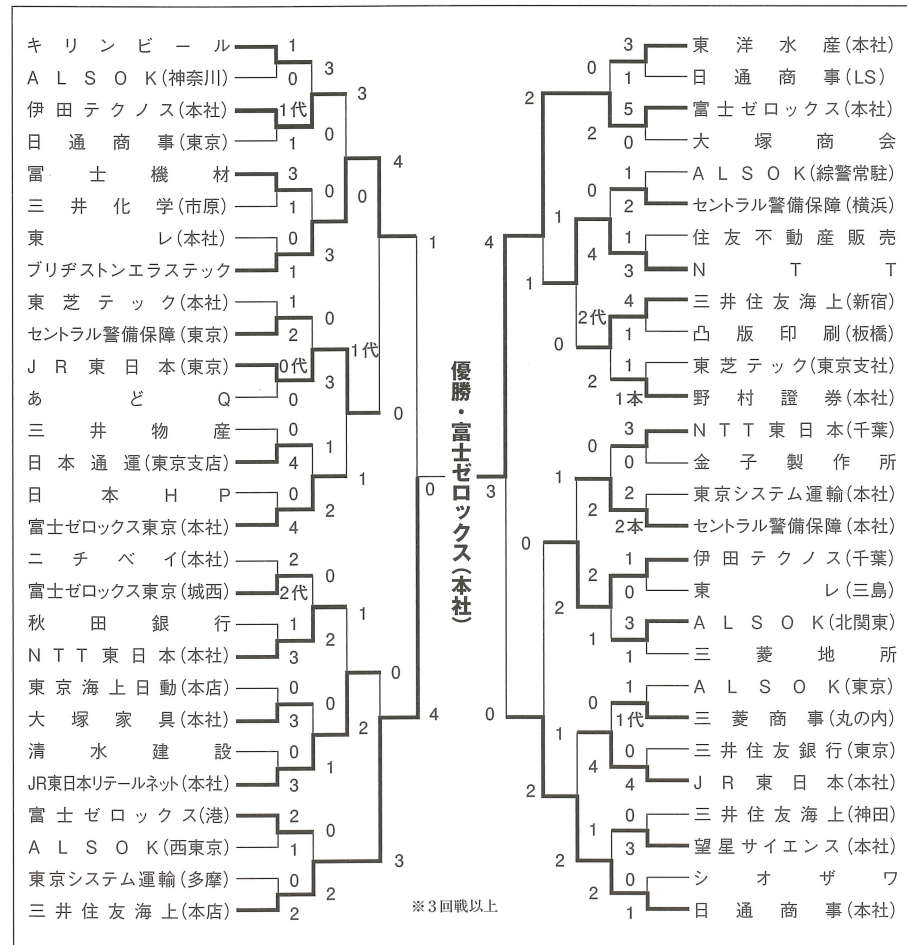
▲先鋒を富士ゼロックス東京、中堅をJR東日本が奪うが、それ以外は決め手はなく、
勝負は代表戦へ。辻と野村の大將同士が戦った代表戦は際どい技の応酬となるが、
最後はコテに潜った野村を辻のメンがとらえた(写真)



富士ゼロックス(本社) 2×0 東洋水産(本社)

【大將】上原 下川

▲昨年の覇者・東洋水産は先鋒戦を落とす苦しい立ち上がり。なかなか挽回できぬ
まま、試合は大將戦へ。攻める下川に対して上原は狙い澄ましたコテで一本(写真)。
前回覇者を破って富士ゼロックスは波に乗る



2位◆三井住友海上(本店)
高村泰央、井口亮、鈴木悠平、石井
将勝、山田健太郎、菊地洋平、監督
II 下畑精郎



3位◆日通商事(本社)
丸山彰一、只野裕樹、諸江智也、中野
真広、本橋靖弘、佐藤康久、監督II
高橋浩司



3位◆ブリヂストンエラストック
安田巧、片岡謙二、松井修司、宮崎
富弘、鈴木匡、樺山篤政、監督II 八
木尚樹





JR東日本リテールネット(本社) 0代×0 大塚家具(有明)

【代表】里井 $\times$ — 松下

▲先鋒から大将まで両軍譲らず、有効打の出ぬまま代表戦へと突入。代表に立ったのは大将。試合開始と同時にメンに跳び気迫を見せた松下だったが、最後は里井の思い切りの良いメンで決着した(写真)



東洋水産 1×0 第1生命(B)
【先鋒】川崎＊長浜
 ▶上段を執る川崎に対して、先鋒戦は引き分けに終わる(は中堅・澤田が一本ずつ取り勝を守り、東洋水産がベスト

長浜はうまく足を使って戦い、写真（川崎の攻め）。東洋水産
合う展開を制して勝利。この一
8へと進出した



日本通運(本社) 1×0 セントラル警備保障(東京)

〔大将〕鹿又㊦反 鈴木

▶先鋒、次鋒が引き分けに終わり、勝負の行方は両大将に託された。日本通運の上段・鹿又は過去この大会で最優秀選手賞を受賞した実力者。ここでは階手ゴテで一本奪い、その後は相手の反則により二本勝ちを挙げた(写真は攻防)



日本通運（東京支店）3×0 化成工業
〔中堅〕齋藤ヨコ×南島

〔中堅〕 齋藤 三ノ 南島

▶先鋒戦を落とした化成工業は中堅の新人・南島に反撃を託す。期待どおりに強烈なメンで先制した南島。しかし、ここから齋藤が実力を発揮。鮮やかな出ゴテで一本返すと、最後はシャープなゴテを打ち込み逆転勝利(写真)



【先鋒】木村 (NTT) ⊗ — 小副川 (日本通運・東京支店)

チーム	順	先	中	大	得点
NTT		木村	村岡	飯田	2
		②	✕	⑤口	3
日本通運 (東京支店)					0
		小割川	齋藤	青山	0



日本通運(東京支店) 2×0 東洋水産

【大将】青山 ①— 大宮

▲先鋒戦を日本通運に奪われた東洋水産。続く中堅戦では両選手決め手がなく、大将戦へと突入。攻めなければいけない大宮だったが、対する青山は惜しいメン技で揺さぶりをかけ、大宮の手元の浮きを見事なコテにとらえた(写真)



【先鋒】平山 (ALSOK・東京) ⊕ メー 門馬 (JR東日本リテールネット・本社)

チーム	順	先	中	大	得点
ALSOK (東京)	平	角	鈴		2
	山	田	木		
	㊦メ	㊧メ			4
JR東日本 リテールネット (本社)			㊨ド		2
	門	上	里		
	馬	野	井		1



NTT 0代×0 大塚家具(本社)

【代表】飯田コ一 菅原

▲前年度優勝チーム・大塚家具にNTTが挑んだ。先鋒から大将までが引き分けに終わり、勝負は大将同士の代表戦に。集中を切らさずに臨んだ飯田が菅原にコテを打ち込み、大一番を切り抜けた(写真は飯田の攻め)

JR東日本リテールネット(本社) 2×0 日本通運(本社)

【大将】里井 ㊦— 鹿又

▼先鋒戦を奪っているJR東日本リテールネット。大将を務めるのは筑波大出身の新戦力・里井。上段の鹿々にに対して巧みな攻めを見せた里井が、相手をうまく誘い出し、コテを打ち込み勝利(写真)



めて。自分の人生において日本武道館で優勝したのも初めての経験です。本当にうれしいです」

と初優勝の喜びを語った。

惜しくも2位となったALSOKも全日本大会に続いて関東大会での決勝進出は見事な結果。また、3位には日本通運（東京支店）とJRR東日本リテールネット（本社）がともに初の入賞を決めた（日本通運は過去Aチームの優勝経験あり）。

